

[成果情報名] 野菜類登録剤を用いたニガウリうどんこ病の防除

[要約] 野菜類のうどんこ病に登録があるジーファイン水和剤とイオウフロアブルは、ニガウリうどんこ病に対して薬害もなく、防除効果が高く、これらを組み合わせた防除により収穫期間中の本病の発生を低く抑えることができる。

[キーワード] ニガウリ，うどんこ病，野菜類，ジーファイン水和剤，イオウフロアブル

[担当] 総合農林試験場・環境部・病害虫科

[連絡先] 電話（直通）0957-26-4413、（直通）0957-26-4413

[区分] 野菜（生産環境）

[分類] 指導

[背景・ねらい]

ニガウリは、本県ではビニル被覆による雨よけ施設で栽培されることが多く、6～8月を中心に収穫される。ニガウリうどんこ病は高温多湿で、光線不足の場合に発病しやすいことから、茎葉が込み合う収穫期間に発病が多い。ニガウリはマイナー作物で、登録されている農薬も少ないため、野菜類登録薬剤の有効利用が求められるが、ニガウリでは、葉に薬害が生じやすく、また防除効果のデータもない。

そこで、野菜類のうどんこ病に登録を有し、有機農業にも使用が可能なジーファイン水和剤、イオウフロアブルおよびハーモメイト水溶剤のニガウリにおける本病防除効果と薬害との両面から実用性を検討する。

[成果の内容・特徴]

- 1．ジーファイン水和剤とイオウフロアブルは、防除効果が高く薬害も認められない（図1）。
- 2．ジーファイン水和剤とイオウフロアブルとの組み合わせによる防除は、収穫期間中の本病発生を低く抑えることができる（図1，表1）。
- 3．ハーモメイト水溶剤は、ニガウリうどんこ病に対して防除効果は高いが、葉に実用上問題のある斑点型の薬害を生じる（図2，写真1）。

[成果の活用面・留意点]

- 1．本試験に用いた品種は「えらぶ」である。
- 2．ハーモメイト水溶剤の葉での薬害については、これまでの調査（鹿児島県、宮崎県、長崎県）により、「えらぶ」、「か交5号」および「チャンピオン」では症状が激しく、「久留米百成2号」ではやや軽いが症状が認められ、「佐土原3号」では認められていない。
- 3．本試験圃では認めなかったものの、イオウフロアブルは一般的に果実に汚れを生じやすいので留意する。
- 4．ジーファイン水和剤は耐性菌が出にくいとされるが、過度の連用は避ける。また、連続散布により葉の周辺が黄化や硬化することがある。
- 5．うどんこ病は一旦発生すると進展が早いため、圃場内で病斑を見つけた場合は直ちに防除を開始する。

[具体的データ]

表1 各防除体系(2006)の散布薬剤と散布時期

体系区	初発後散布		再発後散布	
	6/22	6/30	7/28	8/5
1	ジ-ファイン水和剤	ジ-ファイン水和剤	ジ-ファイン水和剤	ジ-ファイン水和剤
2	ジ-ファイン水和剤	イオウフロアブル	ジ-ファイン水和剤	イオウフロアブル
3	ジ-ファイン水和剤	ダコニール1000	ジ-ファイン水和剤	ダコニール1000
無処理	-	-	-	-

散布量: 4/20は40L/10a, その他は300L/10a

すべての剤に、展着剤としてスカッシュ1000倍を加用

散布濃度 ダコニール1000:1000倍, ジ-ファイン水和剤:1000倍, イオウフロアブル:500倍

4月20日、全区にダコニール1000の1000倍を散布

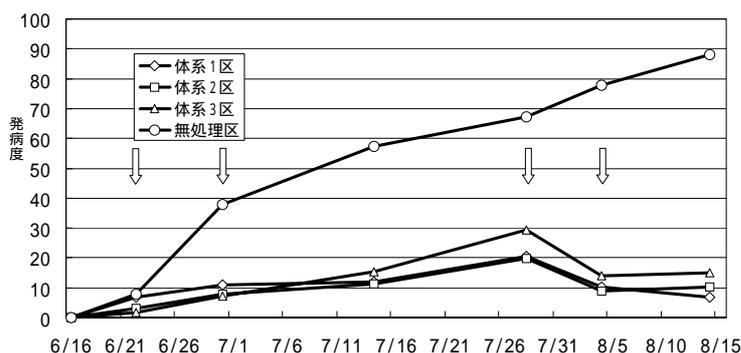


図1 各区におけるニガウリうどんこ病の発病度(2006)

図中の矢印は薬剤散布日を表す。

- 1) 試験場所 諫早市貝津町 農林試験場内ビニルハウス
- 2) 供試品種・区制・面積 品種:えらぶ(自根) 1区3株(9枝), 3反復
- 3) 耕種概要 定植:4月10日, 畦幅:1.5m, 株間:1.2m
- 4) 発病調査 別記発病程度別調査基準により調査
調査葉位は各枝の最下位から5ないし6葉を起点として、各枝12葉調査。

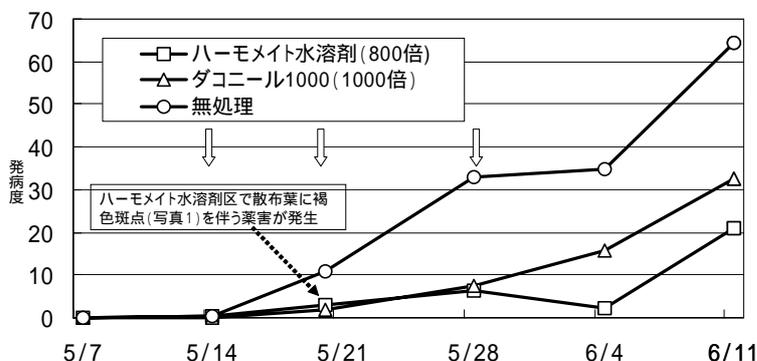


図2 各区におけるニガウリうどんこ病の発病度(2004)

図中の矢印は薬剤散布日を表す。

- 1) 試験場所 諫早市貝津町 農林試験場内ビニルハウス
- 2) 供試品種・区制・面積 品種:えらぶ(自根) 1区3株(12枝), 3反復
- 3) 耕種概要 定植:3月26日, 畦幅:1m, 株間:2m
- 4) 発病調査 別記発病程度別調査基準により調査
調査葉位は各枝の最上位葉を起点として、第5葉から各枝10葉調査。

発病程度別基準

発病程度	指数
A 病斑を認めない	0
B 病斑がわずか(数個)に認められる。	1
C 病斑が葉面積の1/4未満を占める。	2
D 病斑が葉面積の1/4~1/2未満を占める	3
E 病斑が葉面積の1/2以上を占める。	4

発病度 = (指数 × 程度別株数) × 100 / 調査株数 × 4



写真1 ハーモメイト水溶剤(800倍)によるニガウリ品種「えらぶ」の葉の葉害

[その他]

研究課題名: 農林業生産現場への緊急技術支援プロジェクト研究

予算区分: 県単

研究期間: 2006年度

研究担当者: 内川敬介、松尾和敏